

- 生態系の保全・再生によって、**防災・減災機能**（主に遊水機能や雨水貯留・浸透機能を想定）が期待できる取組（Eco-DRR※）の推進に向け、**生態系保全・再生ポテンシャルマップ**を作成。
- 今年度、**土岐川・庄内川流域**を対象に生態系保全・再生ポテンシャルマップを作成。
- 引き続き、市町村スケールでのケーススタディ等を実施し、**令和4年度に手引き等**をとりまとめ。

※Eco-DRR（Ecosystem-based Disaster Risk Reduction）：自然災害に対して脆弱な土地の開発や利用を避け災害への暴露を回避するとともに、防災・減災など生態系が有する多様な機能を活かして社会の脆弱性を低減すること

ポテンシャルマップの作成・活用の手順

土岐川・庄内川流域での検討内容

①現状の把握

土地利用の状況の可視化（雨水の貯留・浸透機能や生物多様性保全機能を有すると考えられる生態系や土地※に関する情報を含む）

※湿地、草原、霞堤、遊水地、水田・畑地、ため池、水害防備林等を想定

「**JAXA高解像度土地利用土地被覆図**」

+ 「**農地の区画情報(筆ポリゴン)**」

を重ね合わせ、現状の生態系の分布・土地利用を可視化

2頁に掲載

②方向性の検討

対象地域の生態系の分布や土地利用の特性を踏まえ、Eco-DRRの推進に向けた方向性を検討。

・愛知県北部等では**水田が分布**しており、これらの保全・再生を図ることが考えられる。

・**丘陵部にはため池が分布**するなど、中上流域において雨水の貯留・浸透を進めることが考えられる。

③適地の抽出

Eco-DRRの推進に向けた方向性を踏まえ、雨水の貯留・浸透機能や生物多様性保全機能等の観点で**評価指標を選定し、Eco-DRRの適地（生態系保全・再生の適地）を抽出。**

【**雨水の浸透が期待できる場所の可視化**】

・地形・地質等から期待される**雨水浸透機能**

【**生物多様性保全を図る上で重要な場所の可視化**】

・里山など**景観の多様度が高い場所**（モザイク状の景観によって多様な種の生息・生育場となっている環境）

・**連続した水田**（鳥類の餌場等として重要な場所）

3～5頁に掲載

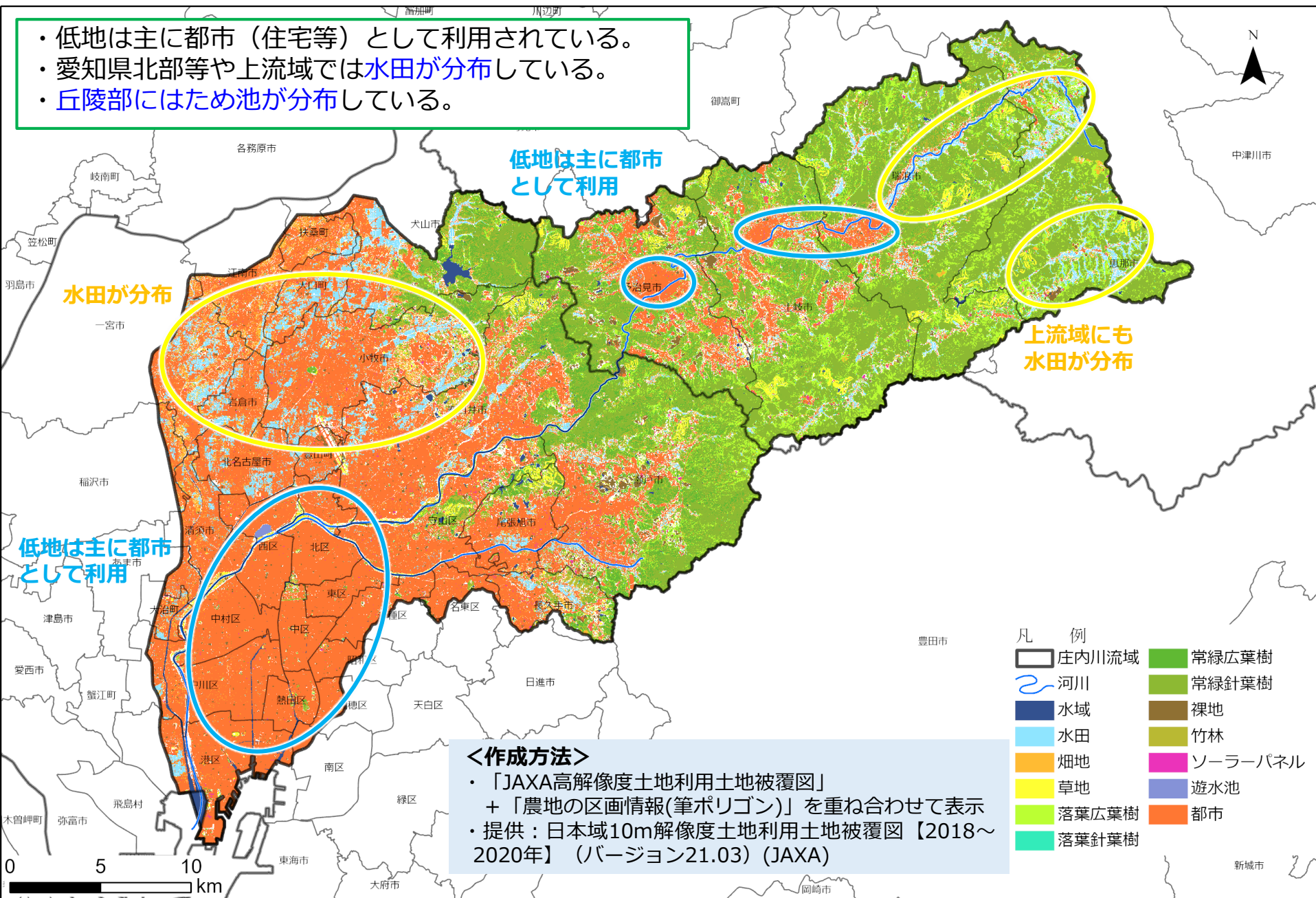
④施策の検討

Eco-DRRの適地に、土地利用の規制に関する情報等を重ね合わせることで、優先的に施策を検討すべき場所や具体的な施策を検討。

※市町村スケールでのケーススタディ等を実施予定

【現状の把握】土地利用の状況の可視化

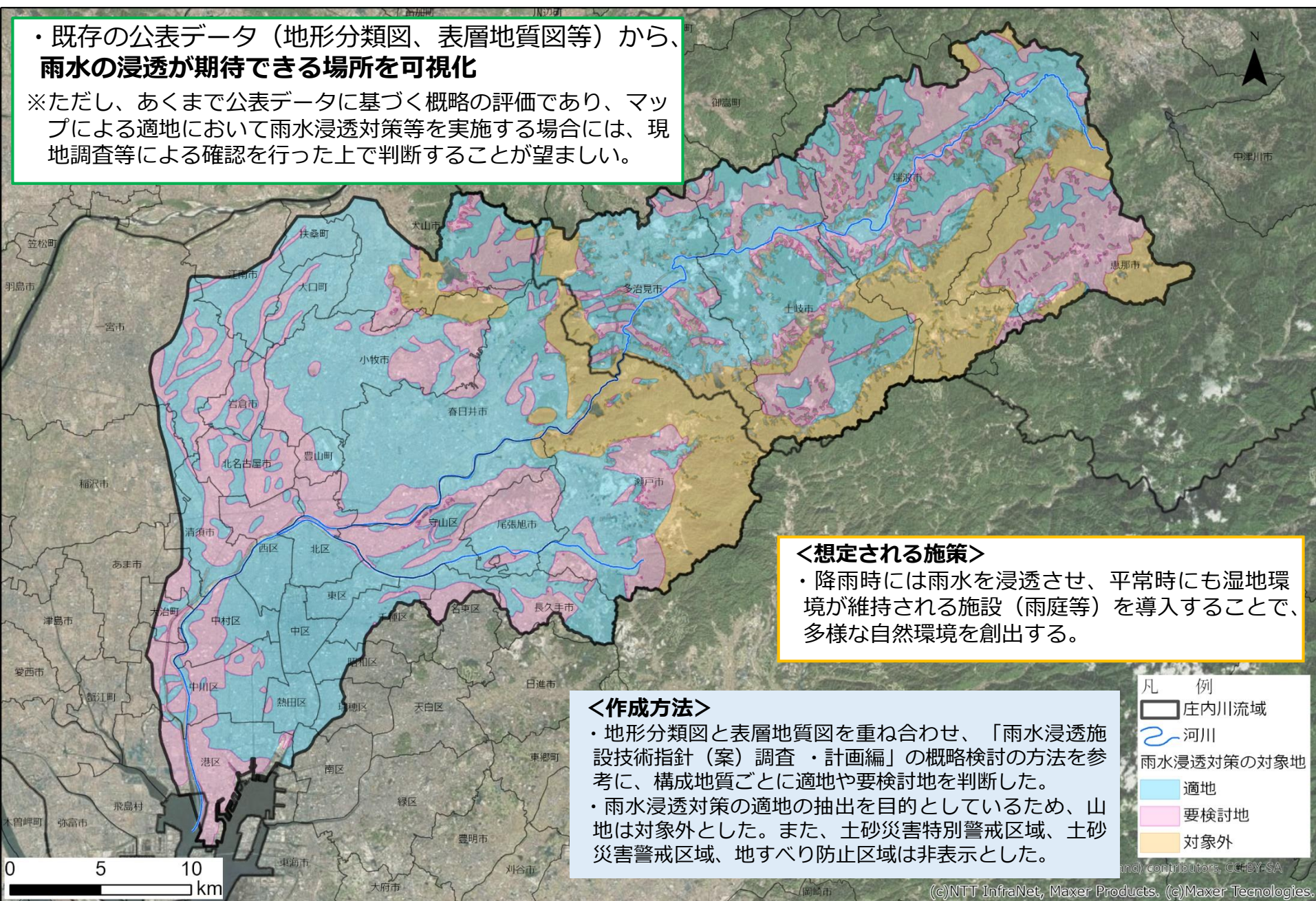
- 低地は主に都市（住宅等）として利用されている。
- 愛知県北部等や上流域では水田が分布している。
- 丘陵部にはため池が分布している。



【適地の抽出】地形・地質等から期待される雨水浸透機能

・既存の公表データ（地形分類図、表層地質図等）から、**雨水の浸透が期待できる場所を可視化**

※ただし、あくまで公表データに基づく概略の評価であり、マップによる適地において雨水浸透対策等を実施する場合には、現地調査等による確認を行った上で判断することが望ましい。



＜想定される施策＞

・降雨時には雨水を浸透させ、平常時にも湿地環境が維持される施設（雨庭等）を導入することで、多様な自然環境を創出する。

＜作成方法＞

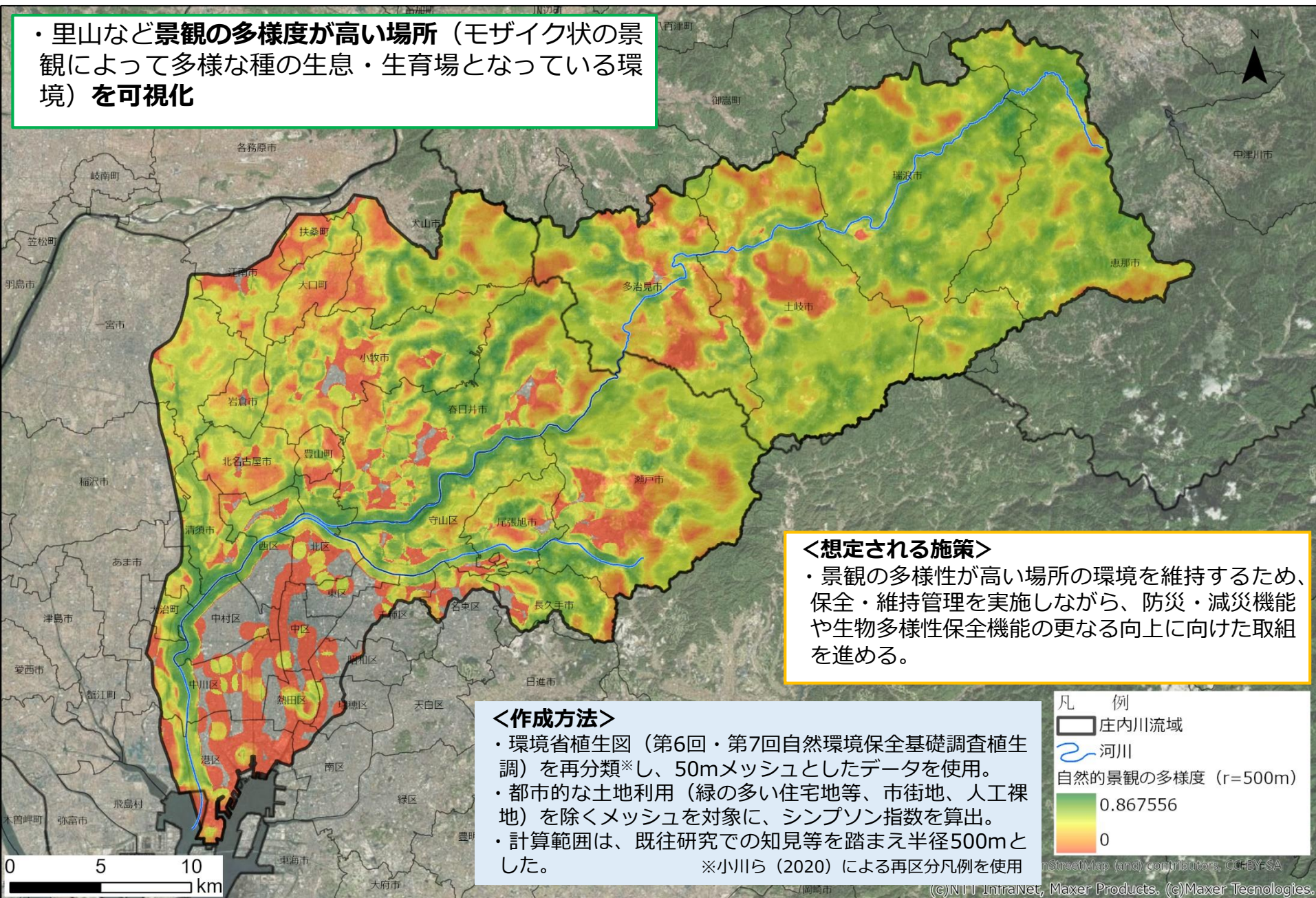
・地形分類図と表層地質図を重ね合わせ、「雨水浸透施設技術指針（案）調査・計画編」の概略検討の方法を参考に、構成地質ごとに適地や要検討地を判断した。
・雨水浸透対策の適地の抽出を目的としているため、山地は対象外とした。また、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、地すべり防止区域は非表示とした。

凡 例

- 庄内川流域
- 河川
- 雨水浸透対策の対象地
 - 適地
 - 要検討地
 - 対象外

【適地の抽出】 景観の多様性が高い場所

・ 里山など景観の多様度が高い場所（モザイク状の景観によって多様な種の生息・生育場となっている環境）を可視化



＜想定される施策＞

・ 景観の多様性が高い場所の環境を維持するため、保全・維持管理を実施しながら、防災・減災機能や生物多様性保全機能の更なる向上に向けた取組を進める。

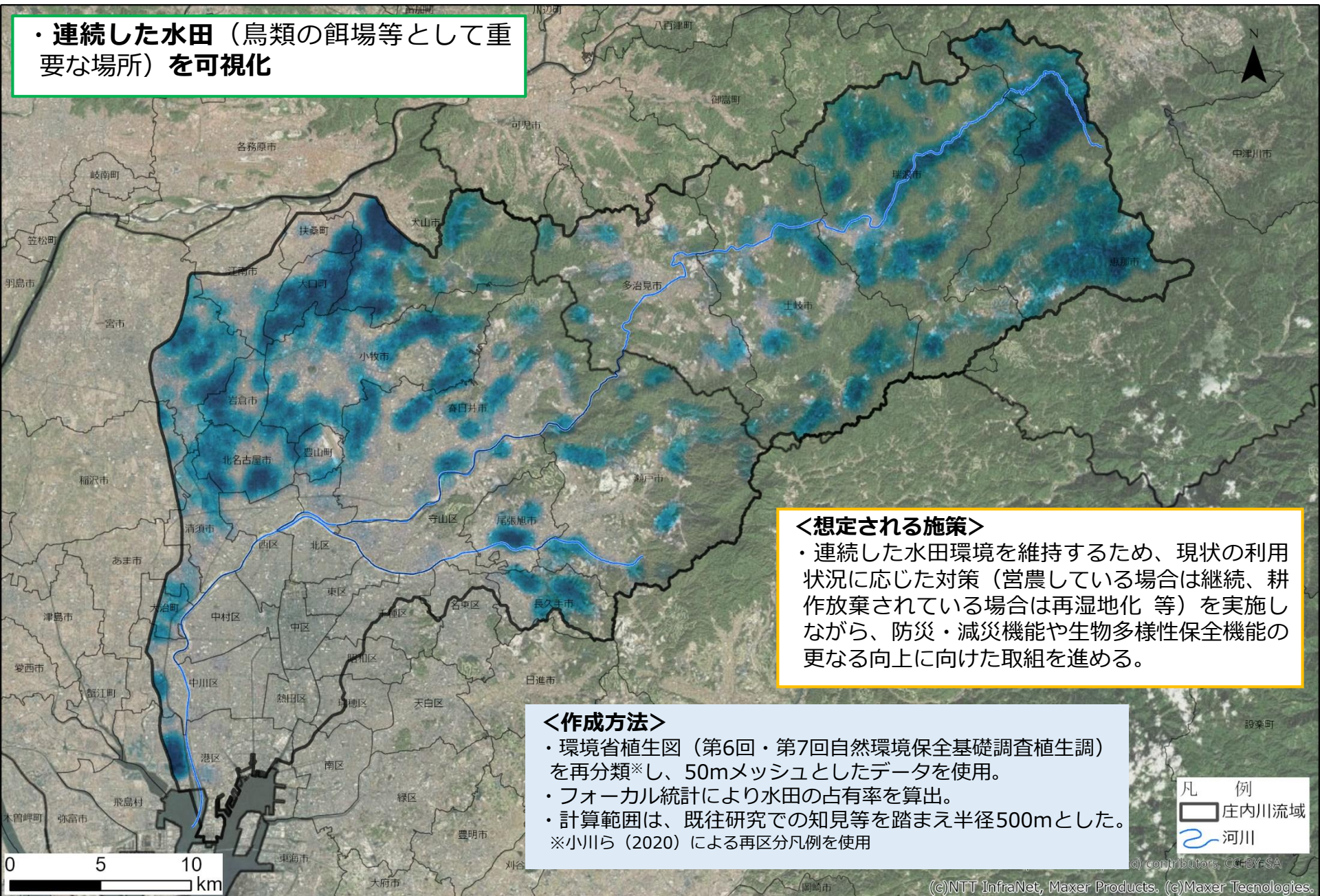
＜作成方法＞

・ 環境省植生図（第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調）を再分類※し、50mメッシュとしたデータを使用。
・ 都市的な土地利用（緑の多い住宅地等、市街地、人工裸地）を除くメッシュを対象に、シン普森指数を算出。
・ 計算範囲は、既往研究での知見等を踏まえ半径500mとした。
※小川ら（2020）による再区分凡例を使用

©NIT Intranet, Maxer Products. (c)Maxer Technologies.

【適地の抽出】連続した水田

・連続した水田（鳥類の餌場等として重要な場所）を可視化



＜想定される施策＞

・連続した水田環境を維持するため、現状の利用状況に応じた対策（営農している場合は継続、耕作放棄されている場合は再湿地化等）を実施しながら、防災・減災機能や生物多様性保全機能の更なる向上に向けた取組を進める。

＜作成方法＞

- ・環境省植生図（第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調）を再分類※し、50mメッシュとしたデータを使用。
 - ・フォーカル統計により水田の占有率を算出。
 - ・計算範囲は、既往研究での知見等を踏まえ半径500mとした。
- ※小川ら（2020）による再区分凡例を使用

凡例

- ▭ 庄内川流域
- 〰 河川